

「支え合いや助け合いに感謝して」の実践例

多くの人に支えられていると感謝する生き方で夢を叶えた人達を知り、自らの生活を振り返り、支えてくれている人に感謝する心と行動を起こすための意欲を喚起する。

生きていくためには、多くの人に支えられているという事実を内省させ、その人たちへの感謝の心が自らの生きる力を増すのだと理解させ、行動させることを本実践はねらいとしています。

道徳の時間において、夢を叶えた先人の体験を知らせ、そのためには、他者への感謝が大切だと理解させます。そして、自らの内省を通して、支えてくれている人へ感謝の心を伝える意欲を喚起させ、お礼を述べる行動につなげさせます。日常の様々な場面においても、感謝を表すための行動を計画させて取り組ませるなど、学校の教育活動全体を通じた指導へと発展させたいものです。

1 道徳の時間の指導(案)(平成26年6月25日5校時目, 妹背牛小5年21名, 柳谷直明指導)

(1) 主題名 支え合いや助け合いに感謝する心

(2) ねらい 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。

(3) 資料名 「(5) 支え合いや助け合いに感謝して」他 / 内容項目 2 - (5)

(4) 展開例 (本時1 / 1)

階	○発問 (◎主発問) ・予想される子どもの反応等	*教師の働きかけ ■評価等
導 入	1 動機付け ○ 「夢を叶えてもらいたい。しかし、こうすると叶うという簡単な方法はない。だから多くの本を読み、人の生き方に学び、自分の生き方の参考にする。これから、一人の女性の話を読む。自分だったらどうするかな、と考えながら聞く。 <u>生き方の授業だ。</u> 」	本時では、教育出版の副読本と『私たちの道徳』88～91ページを用いる。読み物教材『黄熱病とのたたかい』は6年生で読ませるとよい。6年間で一つの教材を用いる計画を立てる。夢の記述はここでは扱わない。
展 開 前 半	2 語り 上野由岐子の名を伏せて、教材文を読む。 3 記述 ○ 「自分が同じように入院したら、どう思うか。」 4 討論 ◎ 「自分なら野球をやめる。やめる人な、と思う人は○。やめないと思う人は×。理由も書く。」 前向きな子に立論させる。反論もさせる。 ・ 諦めずに野球を続ける。諦めて別な努力をする。	「26 悲願の金メダル—上野由岐子—」『心つないで ⑤』教育出版の副読本、90～92ページ。 * 言語活動1 メモ 『プランくん』というメモ用紙を配付し、横書きでメモさせる。 * 言語活動2 討論 立場・根拠の自己決定、反論を経験させる。
展 開 後 半	5 批評 ○ 野球を続けた上野さんから、何を学ぶか。 6 視聴 ○ 「本校卒業生で夢を叶えたオリンピック選手は誰か。吉原さんは夢を叶えるため何が大切と言っているか。」 7 内省 『私たちの道徳』88ページから全員音読。 ○ 「人への感謝の心を持ち、全員が夢を叶えてほしい。誰に何を感謝したいか決めて書こう。」	■ 自分の考えを持ち、他者の考えとの異同を考え記述したか。 * NHK総合テレビ『課外授業ようこそ先輩』平成19年12月15日放送ビデオ。吉原知子選手を紹介する。 ■ 感謝の心を伝えようと思っ て、記述したか。
終 末	8 行動 同、90ページに記述。支えてくれている人を決め、何をしてくれているかを隣の子と交流する。誰にどのようなことができるか。家庭で考えてくる。次時にお礼の葉書を書くこと知らせる。	* 言語活動3 葉書 表書きの書き方(宛名, 差出人) * 『私たちの道徳』91ページ。 「どのようなことをしてみたい」かを家庭で記述させる。